

かわらばん

第17号 2017年10月18日



プラカード 樹村みのり

10・8 安倍改憲を許さない女たちのリレートーク
武器ではなく、私たちの生活支援を……角田由紀子
立憲民主党に望むこと……柳沢由実子
戦争未亡人はもう決してつぐらない……坂元良江
立憲民主党に期待します……瀬川章子

10月8日、「一票で変える女たちの会」と「安保法制違憲訴訟・女の会」が、有楽町のマリオン前で「安倍改憲を許さない！3000万人署名」女たちのリレートークを開きました。

31人の女性たちのリレートークした中から、坂元さんと瀬川さんのスピーチ、事情で参加できなかった角田さん、柳沢さんのメッセージ、漫画家樹村みのりさんの手作りプラカードを紹介します。

武器ではなく、 私たちの生活支援を

弁護士 角田由紀子

私は、一九八六年から性暴力被害者の方々の側に立って仕事をしてきました。その中で、社会が彼女たちにどんなに冷たいかを実感してきました。そのような社会ではありませんが、国際的及び国内的な人々の認識の変化もあり、性暴力被害者への視線は少しずつ変わってきました。例えば、政府は、二〇一五年一二月に閣議決定された「第四次男女共同参画基本計画」では成果目標として、「行政の関与するワンストップ支援センター」設置数を二〇二〇年までに各都道府県に最低一か所とすることを明らかにしました。現在、ワンストップセンターを名乗る組織は、全国で三九カ所になっています。皆さん、ご存知でしょうか。ワンストップセンターでの支援員の仕事は高度に専門的なものです。傷ついた人の回復を手助けするというのは、被害の実態を理解し、個別に必要な対応を提供するという極めて高

い知見とスキルを必要とするものです。被害者の回復を助ける仕事は、単に「かわいそう」という気持ちで行えるものではありません。二四時間三六五日の対応を求められるものです。

そのような専門性を必要とする苛酷な仕事であるのに、その人たちの待遇は信じられないほど劣悪なのです。私の知っている支援員の人は、その県の被害者支援のいわば元締めの仕事を長年にわたりしております。彼女は六〇代です。その道の専門家でフルタイムで働いています。が、賃金はなんと一か月一五万六千円です。非正規雇用の職員に至っては、月額の賃金はその県の最低賃金と良くて同額か、それ以下なのです。こんなことが許されていいはずがありません。

彼女たちは、人の命を支える仕事をしているのです。

一方、抑止力と言って、軍事力に使われている予算の額は驚くべきものです。皆さんは、あの、落ちてばかりいるオスプレイにどれだけのお金がかかっているかご存知でしょうか。何と、装備費用を含めて、一機一〇〇億円です。政府は、五兆円を

超えるお金を軍事費に注いでいます。一方でワンストップセンターへの補助金は、三九カ所全体で何と一億六〇〇〇万円です。一カ所僅かに四一〇万円です。人を殺すためには膨大なお金を注ぎ込み、人を生かすためには「雀の涙」以下のお金しか使わない政治を、このまま続けさせて良いはずがありません。

税金は命を生かすためにこそ使われるべきです。私たちは、安倍政権が、女性のためにいかに冷たい政治を行ってきたかを知る必要があります。今こそ、女性や子どもがこの社会で弱者扱いされている人々にやさしい政治を求めて手をつないで立ち上がりましょう。今回の選挙はそれを実現させるチャンスです。ワンストップセンターが必要なお金を得られる政治にすることは、私たち、普通の人間が人間らしい幸せな生活を手にすることが出来る政治にすることです。共に、手をつないで頑張りましょう。私たちはそれを実現できる力をもっていることを確認しましょう。これこそ、本当の希望です。女性がトップにいるからといって、偽の希望に騙されてはいけません。

立憲民主党に望むこと

翻訳家 柳沢由実子

私はスウェーデン語と英語の文学と社会問題を四〇年間翻訳してきた翻訳家です。日本が外国の情報を取り入れ、また外国が日本を知ることが平和に共存する一つの手段と思つて翻訳の仕事が続けてきました。

私は立憲民主党が誕生したことを喜んで一人です。昨日発表の公約も納得できるものでした。税と財政の見直し、教育と子育て支援、憲法を守り安全保障は専守防衛、そして原発ゼロの実現、どれも必ず実行してほしい。

ただ私は、ここに大事なものが一つ欠けていると言いたい。それは、国際社会の中の日本という視点です。激動する世界の中で、日本はどのようにありたいか、外交の理念を示すことです。残念ながら、枝野さんの新党設立の演説にも、昨日の立憲民主党の公約にも、国際社会の中の日本という視点が述べられていません。激動する世界の中で日本はどのような理念を持つて世界の国々

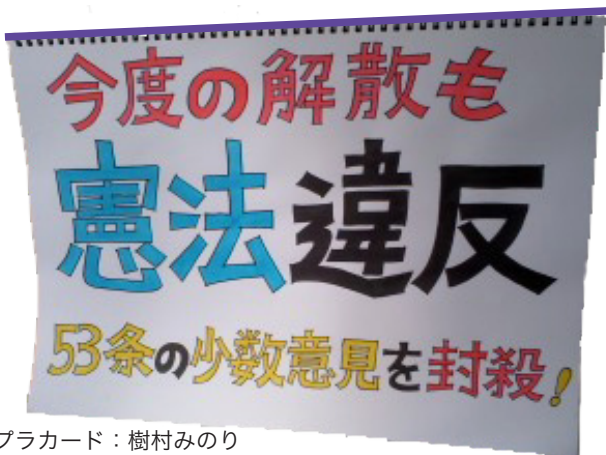
と付き合っていくか、という展望がすっぱり抜けています。これは今度の衆議院選挙の公約を発表しているどの政党にも言えることです。

新しく出発する立憲民主党に望みます。是非ともその基本理念に平和主義を入れてほしい。原発ゼロを目指すのと同じくらい強く、日本は外交で、話し合いで、平和を推し進め、世界の国々と丁寧につき合っていくという姿勢を内外に宣言してほしいのです。それは日本国憲法の基本精神でもあります。

これは、安倍政権がアメリカカベつたりの外交であることに不満と不安を感じている多くの国民の心配に答えるものになります。安倍政権は核兵器禁止条約に署名していません。日本が世界で唯一の被爆国であるのに、です。また、今年のノーベル平和賞に選ばれた核兵器廃絶国際キャンペーン(NGO、ICAN)に、日本政府は祝辞さえ送りません。また、国連人権理事会から日本在住の外国人に対するヘイトスピーチを指摘される動きはありません。

このような安倍政権とは違って、立憲民主党は**平和主義を基礎として**

内外の人々、世界の国々と付き合っていく姿勢であるということを、是非宣言してほしい。枝野さんをはじめ、新しい日本の未来を作る立憲民主党の皆さん、安全保障を言うときは、まず日本は平和外交に全力を尽くすことを約束してください！ それこそが、私たちが望む日本の姿です。



プラカード：樹村みのり





戦争未亡人をもう決して作らない

テレビプロデューサー 坂元良江

太平洋戦争が終わるまで女には選挙権がありませんでした。初めて女性が進歩できることになった日、母や祖母たちは誇らしげに嬉々として投票に出かけて行きました。

戦争が終わった日のことをよく覚えていています。私は国民学校二年生でした。長野県の田舎に疎開していました。大人たちがなにか深刻に話したりしているのを見ながら私は「お父さんが帰ってくる!!」と一人で大喜びしていました。

父は終戦の前の年、一年生の私をかしらに、生れてわずか七五日の小さな弟など四人の幼い子どもたちを残して出征してしまいました。でも父は帰ってきませんでした。中国で戦死していたのです。東京の家も五月の空襲で焼けていました。

都会の専業主婦だった母は、ミシンを踏んだり、慣れない農作業の手伝いをしたりで必死に働き、食べものは子どもたちに与えて自分は食べ

ないというような暮らしの中で結婚にかかり、極貧の生活でした。戦争未亡人の子どもたちは私より年上の長男、長女たちはどんなに優秀でも高校へは行けず、紡績工場の女工などになって中学を卒業すると働かなくなりました。昭和二十七年に私が中学三年生の時に戦死者に遺族年金が出るようになり、私は高校へすすむことができました。奨学金とアルバイトで大学も卒業し就職しました。結婚して男の子が生まれました。孫息子も一六歳になります。

実は私の祖父は日露戦争でなくなっています。我が家は二代続いて戦争未亡人家庭だったのです。貧困だけではなく、戦争未亡人家庭だ、片親の子だといって差別を受けて育ちました。弟はクラスで悪いことが起きると、戦争未亡人の子どものせいにされていました。大学を卒業するとき就職試験を受けた時にも、「お父さんがいませんね」と重役面接で落とされたテレビ局がありました。そういうことは聞かないテレビ局に就職し、私は社会人として一歩を踏み出すことができました。

私は夫も息子も戦地に送ることはありませんでした。平和憲法があり、

日本が戦争をしない国になったからです。ベトナム戦争の映画をティーンエイジャーになった息子と一緒に見たことがあります。戦場で殺し、殺される若者たちの姿を見ながら、隣に座っている息子が戦地へ行くことがないことを幸せだと思いましたが、どれほど平和憲法をありがたく思ったかしれません。今も世界のあちこちで無残に殺されていく子どもや若ものたちがいます。

この平和憲法を次の世代に残すことは、長く平和の中で生きてくることが出来た、私たち大人たちの使命です。先ほど新橋でスピーチを聞いてきました。若い女性が「未来を作っていくのは私たちです」と言っていました。私には未来を作ることはもうできません。でも私たちは男たちを二代戦地に送りませんでした。それを三代、四代と引き継いでいくために、戦争未亡人をもう決して作らないために、平和憲法を守っていく活動をできる限りしなければならぬと思っています。

立憲民主党に期待します

保育士 瀬川 章子

私は、二十歳から保育の仕事をしています。今年で四七年目です。

この度の選挙で、安倍首相は、子どもたちの未来のため、そして、北朝鮮の脅威から国民を守るための選挙と声高らかに言っています。

高いところでの発言は、躊躇しましたが、保育士をしている娘に、いよいよ、戦争になるかならないかの分岐点の選挙だから、頑張つてと力強く背中を押されてここに来ました。

安倍首相!! 子どもたちの未来を語るのなら、選挙費用の六〇〇億円を、今必要としている子育て中の家庭や、働きたくても保育園に入れない子どもたちのために、使ってほしいと、強く思います。

選挙費用の六〇〇億円は、近々の課題である子育て支援に使いました。たとえば、安倍首相は子育て支援に本気だと思えます。しかし、選挙のために、勝つために子育て支援と言っているようにしか聞こえま

せん。

保育現場の状況は、待機児解消で、箱モノだけは、作っていますが、保育士が足りません。苦肉の策で、五五歳以上を対象に、数日間の研修と一日半の保育園見学実習で、子育て支援員制度を設けました。しかしこのような付け焼刃対策では、保育士不足は解消されません。

二〇歳で、短大や、専門学校を卒業し、はれて保育士資格を取っても、保育現場で働くのは半数くらいで、他職種を選択します。実習を通して、現場の厳しさを実感するからです。

人生経験のない学卒で、〇歳から就学前までの子どもたちの発達を知り、長時間保育、勤務、子育て支援として、保護者対応、衛生管理、安全管理、睡眠時の呼吸チェック、指導計画、行事計画、クレーム対応などをかかえ、様々な困難に押しつぶされるのです。

昨日までいた保育士が、何の連絡もなく、来なくなる現実、日常茶飯事です。

福祉国家と言われるスウェーデンのように、保育士は、今より時間をかけて養成していく必要があります。四年制大学、大学院で子供の発

達や、心理学を学び、保育資格を得る。そして、給与や待遇でも優遇されなければ、子どもたちの未来は、明るいものにはなりません。子ども未来は、待機児解消だけではありません。もつと抜本的に、子育て支援を、考えていかなければならない。日本の政治の大きな課題です。

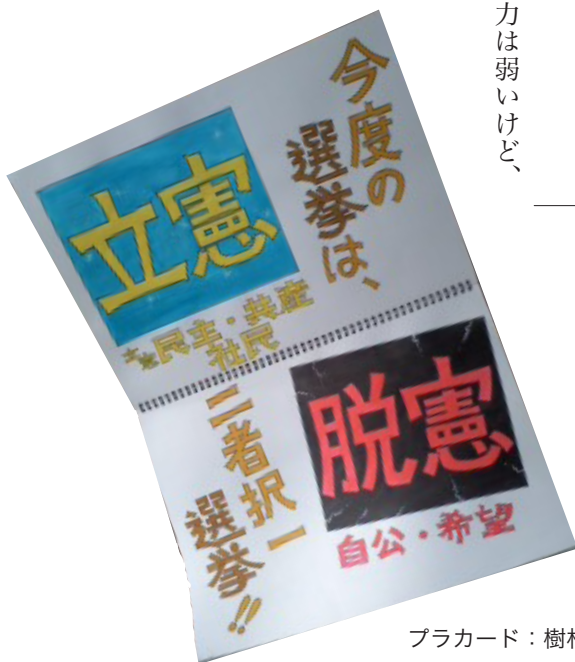
安倍首相は 森友、加計問題に一切触れないで、国民の疑問に答えなくても、かつこいことばかり演説しても、不信任は募り国民は決して納得していません。

この選挙で、自民党が勝利したら、戦前の軍国主義の足音が、すぐそこまで聞こえてきます。どんなことがあっても、自衛隊容認、憲法九条改悪を進める自民党、希望の党を勝たせてはいけません。

私たち一人一人の力は弱いけど、

反核運動のうねりが世界を動かしています。被爆者、支援者のためめめめ努力が世界の人々を、反核運動、平和運動へ結実し、世界の人々が大きく手を繋ぎ、ノーベル平和賞の受賞となったと思います。小さな声も、声を上げ続ければ世界とつながる。政治を動かすことを、ICANから学びました。

この選挙、子どもたちが、夢や希望をもって生きる日本であり、世界と優しく手を繋ぎ。戦争への道にしないことを、「平和か戦争か」の選択選挙としつかり胸に刻んで、頑張ります。



プラカード：樹村みのり